

Title	ベンチャー企業におけるトップマネジメントチームのあり方
Sub Title	
Author	堀口, 治美(Horiguchi, Harumi) 奥村, 昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2083号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2083

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	奥村 研究会	学籍番号	80430848	氏名	堀口 治美
(論文題名)					
ベンチャー企業におけるトップマネジメントチームのあり方					
(内容の要旨)					
<p>2004年、新興株式市場への上場を果たした新規公開会社は合計で152社を記録し、ITブームに沸いた2000年(157件)に次ぐ水準に達した。しかし、日本における規模別ファンド数や、起業の開廃業率の推移を見ると、相変わらずベンチャー企業を取り巻く環境は厳しい。</p> <p>このような環境の中で、行政によるベンチャー企業支援は広範囲に行われるようになったものの、いわゆる「多産多死型」の支援策にとどまるものであり、創業後、ベンチャー企業が更なる成長を遂げるための経営戦略が求められていると考えられる。</p> <p>そこで、本論文では、「経営陣の編成」に焦点を当て、経営陣として、どのような人材が求められているのか、また創業者にどのような資質が備われば、適切な経営陣を獲得することができるかについて検証を行った。</p> <p>まず、ベンチャー企業に求められている人材については、「創業メンバーが持つ企業特異の経験」および「同業種の企業におけるマネジメント経験」を持つ人材が、企業成長にどのような影響を及ぼすかを、日本のベンチャー企業をサンプルに検証を行ったところ、創業メンバーや同業種の企業における経験よりも、むしろ外部からの人材、異業種での経験を持つ人材がベンチャー企業の成長につながる事が分かった。</p> <p>また、適切な経営陣を編成する上で、創業者が持ち合わせるべき資質については、成功事例として米国のDELL、Yahoo!の2社、失敗事例として日本のハイパーネットの合計3社について事例研究を行った。</p> <p>検証の結果、成功事例としての2社に共通する点は、創業者自身が、経営者として不足している能力を自覚しており、補うべき能力は、外部から効果的に経営陣の採用を行うことで、パートナーシップによる経営を行っていることが分かった。一方で、ハイパーネットでは、創業者が経営者としての能力を持ち合わせていると錯覚し、外部からの人材を採用したにもかかわらず、必要な権限委譲をできずに倒産に至ることになった。</p> <p>以上の結果から、日本のベンチャー企業には、即効性のある適切な経営スキルを持ち合わせた人材を効果的に採用することが必要であるとの立場に立ち、提言を行う。</p> <p>ただし、経営陣の外部調達に関しては、現状の日本では経営者市場が未発達であることから、ベンチャー企業への経営陣の供給源となる企業、および人材の流動性を高めるために必要な環境整備を行うべき政府に対しても提言を行う。</p>					